

金融と保険の融合の進展に関する調査研究報告書の作成

株式会社損保ジャパン総合研究所（以下「損保ジャパン総研」、理事長：宮村智）では、このたび、「金融と保険の融合の進展—金融コングロマリットとART（Alternative Risk Transfer:代替的リスク移転）に関する調査研究報告書—」（以下「報告書」）を作成しました。損保ジャパン総研ホームページ上で2月6日から報告書全文を無料でダウンロードできますので、ぜひご利用ください。

（URL：http://www.sj-ri.co.jp/research/insurance_finance/insurance_finance.html）

損保ジャパン総研では、金融（銀行業・証券業）分野および保険分野の学識者を委員とする「金融・保険の融合に関する研究会」（座長：杉崎重光 前損保ジャパン総研理事長）を設置し、金融と保険が融合する実態について調査研究を進めてきました。報告書は、損保ジャパン総研による海外現地調査に基づく研究会での論議を踏まえてとりまとめたものです。

【※1】金融コングロマリット

報告書では、1つのグループ内で銀行業・証券業と保険業の両方の事業を大規模に営む金融機関としています。

【※2】ART（Alternative Risk Transfer:代替的リスク移転）

従来の保険および再保険の代替となる新たなリスク移転手法の総称です。

■報告書の特徴

1. 次の2つの領域に焦点を当てた調査研究

- （1）保険業を含む金融コングロマリット（資本・組織面での融合）
- （2）保険リンク証券等のART（商品面での融合）

2. 現地調査に基づく事例中心のアプローチを採用

現地関係者へのインタビューを数多く掲載しました。インタビュー結果は、取引の当事者たちがその時点で何を考えどう判断したかに関する直接的・具体的な事例として、読者の理解を促進します。

【※3】保険リンク証券

異常災害リスク等を証券化し、金融・資本市場の投資家に移転する手法です。あらかじめ定めた異常災害等が発生した場合、発行者は利払いや元本償還が免除されます。

■報告書の掲載内容

第1章 金融と保険の融合の進展：調査研究の目的と方法

近年、主要先進国では金融サービス業における金融（銀行業・証券業）と保険の融合を表す現象が生じています。保険業を含む金融コングロマリットの形成や、保険リンク証券などの展開は、1980年代までにはなかった新しい現象であり、このような変化が大きな流れになるのかについて、保険事業の側から検証することが調査研究の目的です。第1章では、このような目的と調査の方法について紹介しています。

第2章 保険業を含む金融コングロマリットの事例調査

保険業を含む金融コングロマリットとして、ING（オランダ）、ロイズTSB（イギリス）、アリアンツ（ドイツ）、シティグループ（米国）の4つの事例について調査し、金融コングロマリットがなぜ形成されたのかなどについて検討しています。

第3章 ARTの事例調査

保険会社・再保険会社が、伝統的再保険の他に、なぜ保険リンク証券等のARTを利用し、金融・資本市場にリスクを移転するようになったのかなどについて調査し、検討しています。

第4章 金融コングロマリット、ARTの事例に見られる金融・保険の融合について（まとめ）

保険業を含む金融コングロマリット化やART利用の今後の方向性について検討しています。現在生じている世界金融危機が、金融・保険の融合に影響するかどうかを検証すべく、2008年11月に実務家2名を招き討論会を実施しました。そこでの論議の内容も報告書に掲載しています。

以上